



インフルエンザの準備、大丈夫？

インフルエンザはまだ流行期には入っていないようですが、今後流行が始まり、コロナとの同時流行も考えられます。いざという時に慌てないようインフルエンザの積極的なワクチン接種そして感染対策用品を備えておくことをお勧めします

また、インフルエンザウイルスに関するQ&Aも記載していますので知識を深めて流行を乗り切りましょう

インフルエンザの基本

- ヒトからヒトに伝搬する感染症で毎年流行がある
- 流行は11月から4月にかけて起こるが近年夏季から発症例が認められる
- 感染はウイルス粒子を含んだ咳やくしゃみによる分泌物が軌道粘膜に付着する飛沫感染や鼻汁による接触感染、近距離での空気感染である
- 24から48時間の潜伏期を経て急激な悪寒発熱、悪寒、関節痛などを伴う
- 診断はインフルエンザ抗原の迅速測定キットが用いられ早期診断早期治療が可能となる

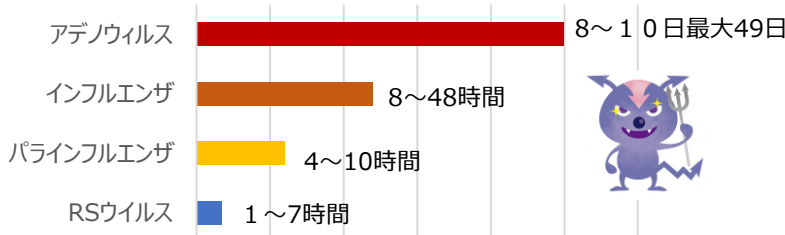


インフルは空気感染もするの？

狭い空間での空気感染の報告はありますが、主は飛沫感染です。「飛沫予防策」で対応しましょう。注意が必要なことは「ウイルスは環境表面でも生き延びている」ということです

環境下で数分以内にウイルスが死滅するのならいいのですが、グラフのようにしばらくの間生き残ります。クシャミなどで環境中にばらまかれたウイルスは、環境中にそのまま生存し感染源となってしまうのです。手指衛生はもちろん環境の消毒にも気を配りましょう

風邪ウイルスのしぶとさグラフ



疑わしい患者さんには念のためにN95マスクを着けてもらおうか？

N95マスクは、装着するのに時間がかかり適正に装着すると息が苦しくなります。患者さんが装着することはなく、訓練された医療従事者が装着するマスクです。



病原体の「内部→外部」の移動を防ぐ



病原体の「外部→内部」の移動を防ぐ



「95」という数字はフィルターの補修効率を示しており、0.1~0.3μmの微粒子を95%以上徐々できる性能を有するという意味です





症状はあるけどキットで陽性がでない

インフルエンザ抗原検出キットはA型で感度95% 特異度98%とされていますが、採取部位、採取時期、採取者により違いがでてしまいます。

採取部位

鼻腔吸引液

鼻腔拭い液

咽頭拭い液

の順で感度が高い



ウイルス量は発症12時間から48時間以内が最も多い

臨床症状はインフルエンザを疑うが、キットが陰性の場合

問題点	対策
検体採取が少ない	検体の取り直し
綿棒に血液が付着	多量の場合偽陽性となる
検体の粘性が強い	処理液中でもみほぐす
判定時間過ぎて陽性ラインが見える	判定時間厳守 原則陰性
反応ラインが薄い	「陽性」



新しいワクチン

小児用「経鼻弱毒性インフルエンザワクチン（LAIV）（商品名フルミスト点鼻薬）が9月26日に発売されました。（適応年齢2歳から19歳未満、接種回数1回3価ワクチン）です。

痛くなくて、1回で済むのでワクチン接種者が増えることが期待できます。高齢者や重症化リスク因子を持つ方へは肺炎球菌ワクチンや新型コロナウイルスワクチン、RSVワクチンの接種も推奨されます。



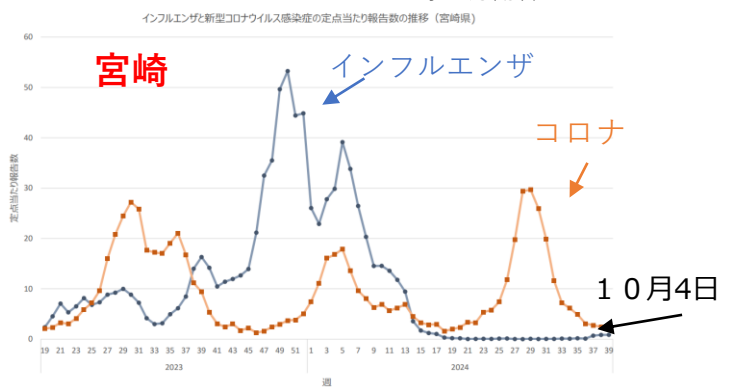
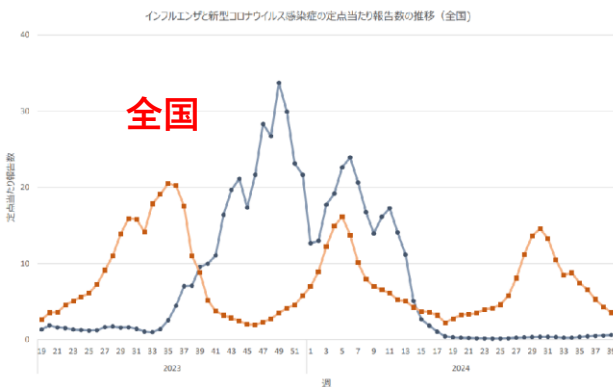
インフルエンザが流行する前にマスク、アルコール、検査キットなどを備蓄しておきましょう

！ コロナが落ち着いてきた今からが注意

インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数の推移

2023年19週以降

厚生労働省ホームページより



参考文献：検査と技術vol.34no.6「インフルエンザウイルスの抗原検査について質問された」検査と技術vol.48no.1「インフルエンザ」検査と技術vol.40no.9「最近のインフルエンザウイルス抗原検出キットについて」ねごろんで読めるCDCガイドライン」矢野邦夫

検査についてのお問い合わせはこちら

Tel. 0985-52-6688

